

船井情報科学振興財団 留学報告書

2017年12月

荒木 淳

1. はじめに

私は、2012年8月よりカーネギーメロン大学コンピュータサイエンス学部言語技術研究所 (The Language Technologies Institute of the School of Computer Science at Carnegie Mellon University) の博士課程に在籍しています。今学期 (2017年秋学期) は博士課程もいよいよ大詰めとなり、就職活動と博士論文の二つに集中している日々が続いています。今回は論文締切が迫っていることもあり、研究について短めに纏めます。

2. 研究

博士論文プロポーザルで提案した研究課題が3つあるのですが、そのうちの2つを同時に取り組んだ形で論文を仕上げようとしています。前回の報告書にも少し書きましたが、最初の課題が難しい課題であり、昨年11月の博士論文プロポーザルを終えた後ずっと取り組んでいたのですが、その課題を単独に解こうとしてもなかなか解けず、2つを組み合わせることで解けることに気付いたのが6月頃でした。私の専門の自然言語処理分野では毎年大体12月から4月までくらいが論文の投稿シーズンであり、今は12月の論文投稿を目標にして最後の詰めをしています。論文の査読はその後も継続しており、私の専門分野で著名な国際会議の査読委員 (Program Committee) を依頼されるようになってきました。これはこれで継続しつつ、関連分野 (機械学習や知識ベース構築) でも査読を任されるくらいに研究の幅も広げていきたいと思っています。

研究はよくマラソンに例えられますが、私自身マラソンの経験はないものの、その例えがよく分かる気がします。焦らず、ペースを乱さず、日々同じ姿勢で取り組む積み重ねが大事なように思います。就職活動と博士論文の二つを同時に進めていくことはなかなか大変ですが、どちらも着実に進めていき、良い形で締めくくれるようにしていこうと思っています。